

Bayer Medical Dialogue

シリーズ：子宮内膜症アドバンス

第12回

日時：2023年**2月2日**(木)
19:00~19:45

月経困難症・子宮内膜症患者のQOLを考える ～女性が輝く社会をめざして～

座長 **大須賀 穰** 先生

東京大学大学院医学系研究科
産婦人科学講座 教授

演者 **吉野 修** 先生

山梨大学医学部 産婦人科 准教授

【略歴】

平成9年	山梨医科大学卒業、東京大学産婦人科学教室入局
平成16年ー18年	米国カリフォルニア大学サンディエゴ校留学
平成25年	富山大学 産科婦人科 准教授
平成31年	北里大学 産婦人科 准教授
令和3年	山梨大学 産婦人科 准教授

子宮内膜症は月経困難症や慢性骨盤痛、妊孕性低下などの臨床症状を示し健康関連の生活の質(Health related-QOL)および労働生産性に悪影響を及ぼすことが知られている。子宮内膜症は20代後半から増え始め30代前後が好発年齢とされ、女性のライフステージから考えても長い期間で多くの女性は前述の臨床症状に悩まされ、特に疼痛によるQOLの低下は労働生産性に大きな影響を及ぼすこととなる。

本講演では、月経困難症・子宮内膜症に対して、“疾病負荷(disease burden)”という視点での評価法の紹介や、これら疾患がQOLの低下および労働生産へ与える影響に関して、昨年改訂された子宮内膜症取り扱い規約や最新の試験報告などを含めて解説をさせていただきます。

ご自宅や病院、診療所などから、インターネットを通じてライブに参加いただけるカンファレンスです。

Q&Aについて

インターネットを通じて随時質問を受け付けます。
お寄せいただいた質問は講演の最後にご回答をいただく予定です。

ご回答いただいた個人情報については、主に本講演会の運営・管理に使用します。その他の利用目的については、バイエル薬品の個人情報保護方針の「個人情報の利用目的」をご参照ください。<https://www.pharma.bayer.jp/ja/personal>

●WEBカンファレンスの参加方法は裏面をご参照下さい。

主催：バイエル薬品株式会社